

- ・吸入すると有害のおそれ（蒸気）
- ・引火性液体および蒸気
- ・水生生物に有害
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・発がんのおそれの疑い
- ・皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）
- ・中枢神経系, 肝臓, 腎臓, 血液の障害
- ・軽度の皮膚刺激
- ・遺伝性疾患のおそれ
- ・重篤な眼への刺激性
- ・長期または反復暴露による肝臓の障害
- ・長期または反復暴露による神経, 血液の障害のおそれ

【注意書き】

- ・保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- ・容器および受器を接地すること。
- ・環境への放出を避けること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・火災を発生しない工具を使用すること。
- ・熱／火花／裸火／高温のような着火源から遠ざけること。－禁煙。
- ・蒸気の吸入しないこと。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・吸入した場合：気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。
- ・皮膚（または毛）にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。
- ・施錠して保管すること。
- ・涼しい所／換気の良い場所で保管すること。
- ・内容物を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

3、組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学物質名	官報公示整理番号		CAS No.
	化審法	安衛法	
ホ [○] リオキシエチレング [○] リコール	7-129	—	25322-68-3
ジ [○] エチレング [○] リコール	2-415	—	111-46-6
2-メチル-2, 4-ヘ [○] ンタンジ [○] オール	2-240	別表9-593	107-41-5
C. I. Solvent Black 7	5-3143	—	8005-02-5
プロ [○] ピ [○] レング [○] リコール	2-234	—	57-55-6
水	—	—	—
エタノール	2-202	別表9-61	64-17-5
メタノール	2-201	別表9-560	67-56-1
フェ [○] ルセロソ [○] ルブ [○]	2-407	別表9-79	111-76-2

4、 応急措置

- 目に入った場合 : 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。洗眼の際、まぶたをよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付いた場合 : 付着物を拭き取り、水と石鹼でよく洗う。外観に変化が見られたり、痛みがある場合は医師の診断を受ける。
- 吸入した場合 : 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が止まっている場合、および呼吸が弱い場合は人工呼吸を行う。直ちに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口を洗わせ、直ちに医師の診断を受ける。意識の無い被災者には何も与えてはならないし、無理に吐かせてもならない。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5、 火災時の措置

- 消火剤 : 初期火災には、粉末、二酸化炭素などを用いる。大規模火災には、水噴霧を用いるか、泡消化剤を用いて空気を遮断することが有効である。
- 特定の消火方法 : 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。貯槽等の火元への移送を止め、可能ならば貯槽等の底部より本品を抜き出す。スプレー水で火炎に暴露されている表面を冷やす。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際には有害なガスを吸い込まないように呼吸器用保護具を着用し、消火作業は風上から行う。

6、 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の

- 際には保護具を着用して、蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。
 付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。
 風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項： 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
- 除去方法： 少量の場合は、吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸収させて取り除いた後、残りをウエス等でよく拭き取る。
 大量の場合は、土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、漏出したものをすくいとり、空容器に回収する。
- 二次災害の防止策： 付近の熱源及び着火源となるものを速やかに取り除く。火気使用を禁止する。

7、 取り扱い及び保管上の注意

- 取扱い：
- 技術的対策： 局所排気装置を設け、通気のよい場所で作業する。
 火気厳禁。静電気、衝撃火花等の着火源が生じないこと。機器は防爆型を使用する。
 漏れ、あふれ、飛散等がないように注意して取り扱う。保護眼鏡、防毒マスク、保護手袋等の保護具を着用し、取り扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
- 保管：
- 適切な保管条件： 危険物設備に保管する。
 直射日光を避け、湿気、火源のない冷暗所に保管する。
 施錠をして保管する。
- 安全取り扱い条項： 作業場所、休息所等に洗顔、洗眼、手洗い等の設備を設置。
 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めるところに従う。

8、 露防止及び保護措置

- 設備対策： 蒸気の発生源を密閉する設備又は局所廃棄装置、洗顔、洗眼、手洗い場を設ける。取り扱い場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類は全て接地する。
- 管理濃度： 1,000ppm (エタノール)
 200ppm (メタノール)
 25ppm (ブチルセロソルブ)
- 許容濃度： 日本産業衛生学会勧告値 設定されていない
 ACGIH (TWA) 20ppm (ブチルセロソルブ)
- 保護具： 保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護服、有機ガス用防毒マスク、保護前掛け。

9、 物理的及び化学的性質

- 形状： 液状
 色： 黒色
 臭い： 溶剤臭
 引火点： 32℃
 溶解性： (水) 可溶

10、 安定性及び反応性

- 安定性： 通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
 避けるべき条件： 高温、酸化性物質との接触回避。

避けるべき材料 : 知見無し
 危険有害な分解生成物 : 知見無し

11、有害性情報

引火性液体	: 区分3
急性毒性 経口	: 区分外
急性毒性 経皮	: 区分5
急性毒性 吸入	: 区分5 (蒸気)
皮膚腐食性/刺激性	: 区分3
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分2 A
呼吸器感作性	: 区分外
皮膚感作性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分1 B
発がん性	: 区分2
生殖毒性	: 区分1 A
授乳に対する影響	: 区分外
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 区分1 (中枢神経系、血液、腎臓、肝臓)
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 区分1 (肝臓) 区分2 (神経、血液)
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
水性環境急性有害性	: 区分3
水性環境慢性有害性	: 区分外

12、環境影響情報

データ無し

13、廃棄上の注意

産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
 焼却処理する際は焼却設備により大気汚染防止法令等に従い処理する事。

14、輸送上の注意

注意事項：火気厳禁。天地無用。
 容器に漏れ、破損の無いことを確かめ、転倒、落下、破損が発生しないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 その他消防法等の法令の定めるところに従う。
 混載禁止：危険物第1類、第6類、及び高压ガス。
 国連分類：クラス 3 引火性液体
 国連番号：1866 (P. G. III) 指針番号：127

15、適用法令

消防法 : 第四類 引火性液体 第二石油類 水溶性液体
 労働安全衛生法 : 表示対象物質 (ブチルセロソルフ、メタノール)
 通知対象物質 (No. 61 エタノール) (No. 79 ブチルセロソルフ)

(No. 593 2-メチル-2, 4-ペンタジオール) (No. 560 メタノール)
(引火性のもの)

危険物

海洋汚染防止法：施行令別表第1 D類

16、その他の情報

参考資料

製品安全データシートの作成指針 社団法人 日本化学工業協会発行
【改訂第2版】緊急時応急措置指針 社団法人 日本化学工業協会発行
原材料の製品安全データシート (各原料メーカー)

本文書の記載内容は、一般的な工業用途について「製品の安全な取り扱い」を確保するための参考情報として提供するもので製造者の保証書ではありません。現時点で信頼し得ると考えられる資料並びに測定などに基づき作成したものであります。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じた適切なる措置をお取り下さるようお願い致します。
